

# 江木衷著作目録

松田 義 男 編  
改訂 2019年 6月 22日  
2010年 4月 28日

江木衷（えぎまこと）は、1858年10月25日(安政5年9月19日)、岩国藩士江木俊敬の次男として山口県岩国市に生まれる。1884(明治17)年、東京帝国大学法学部を卒業後、警視庁、司法省、内務省などに勤務。1893(明治26)年、内務省参事官を辞し弁護士登録。また、1885(明治18)年、英吉利法律学校(現中央大学)の創立に参加、教鞭をとる。1899(明治32)年、法学博士。1925年4月8日逝去。「冷灰」と号す。兄は枢密院顧問官となった江木千之、江木翼は江木千之の養子である。妻栄子は江木欣々として知られる。

## 凡例

「1. 著書」、「2. 論文等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列し、最後に「3. 『冷灰全集』の収録内容」を付した。

\*連載は、初回掲載に一括した。

\*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として本文表題を採用した。

\*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[ ]で示したほか、無題の場合は[ ]に示して仮題とした。

\*掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。

\*編者未確認の著作については\*を付した。

\* その他、編者の注記は適宜[ ]で示した。

本目録作成にあたっては、国立国会図書館、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)、日本近代文学館、筑波大学附属図書館、早稲田大学中央図書館・高田記念図書館・法律文献情報センター・現代政治経済研究所、関西大学総合図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

## 1. 著書

- 『監獄主義論』小野田元熙、1885年10月23日[「冷灰留稿」『冷灰全集 第4巻』収録]
- 『法理学講義』<警視庁蔵版>博聞本社、1885~1888年[『冷灰全集 第1巻』収録]
- 『法律解釈学』1886年2月27日[増訂2版:博文館、1889年11月26日。『冷灰全集 第1巻』収録]
- 『現行刑法汎論』博聞社、1887年6月25日[改正増補第3版:博聞社、1888年11月2日。訂正増補第4版:有斐閣、1891年11月20日。復刻版:『訂正増補現行刑法[明治13年]汎論 全』<日本立法資料全集 別巻 476>(信山社出版、2007年)OK
- 『独仏対照英国行政裁判法』東海書館、1887年7月1日[『冷灰全集 第1巻』収録]
- 『現行刑法各論』博聞社、1888年5月9日[改正増補第2版:博聞社、1889年3月30日。復刻版:『改正増補現行刑法[明治13年]各論』信山社出版、2007年<日本立法資料全集 別巻 477>]
- 『帝国憲法要義』六法館、1889年4月26日[山田喜之助・渋谷慥爾との共著]
- 『現行治罪原論 上巻』有斐閣、1889年5月21日
- 刑法汎論首部『法律叢書』[出版者不明]、[1891]<講義録>
- 『日本民法講義 財産篇 物権之部』有斐閣、1891年2月9日[第2版:1891年5月18日、第3版:1892年6月22日。『冷灰全集 第3巻』収録。復刻版『日本民法財産篇[明治23年]物権之部』<日本立法資料全集 別巻 502>(信山社出版、2008年)]
- 『近世民法汎論』博文館、1891年5月21日[『冷灰全集 第2巻』収録。復刻版:『近世民法汎論』<日本立法資料全集 別巻 474>(信山社出版、2007年)]
- 『日本民法講義 財産篇 人権之部』有斐閣、1892年1月11日[再版:1892年9月6日。『冷灰全集 第3巻』収録。復刻版:『日本民法財産篇[明治23年]人権之部』<日本立法資料全集 別巻 503>(信山社出版、2008年)]
- 『日本民法講義 財産取得篇 取得之部』有斐閣、189?年?月?日[『冷灰全集 第2巻』収録。復刻版:『日本民法[明治23年]講義 取得之部』<日本立法資料全集 別巻 504>(信山社出版、2008年)]
- 『現行刑法原論』東京法学院、1892年9月1日[第2版:東京法学院・有斐閣書房、1894年9月10日。復刻版:『現行刑法[明治13年]原論』<日本立法資料全集 別巻 475>(信山社出版、2007年)OK
- 『民事訴訟原論』有斐閣書房、1893年1月26日[『冷灰全集 第2巻』収録。復刻版:『民事訴訟原論』<日本立法資料全集 別巻 441>(信山社出版、2007年)OK
- 時効法要義『改正民法時効法要義』古谷伊平著、有斐閣、1896年8月23日
- 『現行民法論 総則編』有斐閣、1906年9月29日[『冷灰全集 第2巻』収録]
- 『冷灰漫筆』有斐閣、1909年6月8日[『冷灰全集 第4巻』収録]
- 『山窓夜話』有斐閣、1909年年10月15日[『冷灰全集 第4巻』収録]
- 『日糖事件弁論例範』、共同出版、1910年2月17日
- 『陪審制度談』博文館、1911年10月19日[『冷灰全集 第4巻』収録]
- 日糖事件の弁論[1909年12月24日於東京地方裁判所]『明治雄弁集 後篇』大日本雄弁会編、昭文堂、1912年8月18日
- 『最近思潮国家道徳論』博文館、1912年10月27日[第3版:1913年6月15日。『冷灰全集 第4巻』収録]
- 婦人解放論序『婦人解放論』西川文子著、中央書院、1914年2月15日[復刻版:『叢書『青鞜』の女たち 第16巻』不二出版、1986年]

官僚の目に映ずる人権問題『刑政に関する緊急問題』中央書院、1914年10月5日[『理想の憲政』、『冷灰全集第4巻』、多田道太郎編『現代日本思想大系 18 自由主義』(筑摩書房、1965年)、今井清一編『思想の海へ9 大正デモクラシー 草の根と天皇制のはざま』(社会評論社、1990年)収録]

加藤総長の涙『名士の学生時代』読売新聞社編、岩陽堂書店、1915年6月7日

天爵の蹂躪者[談]『乃木家再興問題論難集』以文閣書房、1915年11月25日

『憲法政治に対する長防人士の責任』[講演筆記]山口県法政会、1917年3月15日[『理想の憲政』、『冷灰全集第4巻』、今井清一編『大正思想集 1』<近代日本思想大系 33>(筑摩書房、1978年)収録]

憲法政治に対する長防人士の責任[1917年2月18日山口県法政会席上講演(於富士見楼)]『第三十八帝国議会解散後名士演説集』三英社、1917年4月10日

憲政済美のクーデター『第三十八帝国議会解散後名士演説集』三英社、1917年4月10日

『理想の憲政』有斐閣、1917年5月25日[『冷灰全集 第4巻』収録]

余の学生時代の勉強法、『現代名家の實行せる学修勉強法』大畑匡山編 岡村書店、1918年5月4日

\* 『諮問第二號ニ對スル卑見追加 陪審制度ト憲法ノ關係』江木衷、1919年

\* 『諮問第三号信託法制定ニ對スル卑見』江木衷、1920年

\* 『信託法トシテ制定スベキ立法事項』江木衷、1920年

\* 『信託立法方針』江木衷・原嘉道、1921年

『国体論』<非売品>江木衷、1921年10月[『冷灰全集 第4巻』収録]

『憲法と陪審法』<非売品>江木衷、1921年[『冷灰全集 第4巻』収録]

『天祐と陪審法』<非売品>江木衷、1921年11月26日[『冷灰全集 第4巻』収録]

操觚界の理想家『黒岩涙香』涙香会編、扶桑社、1922年10月6日[復刻:長谷川泉監修『近代作家研究 叢書 111 黒岩涙香』日本図書センター、1992年]

『陪審問答』<非売品>江木衷、1923年3月

『普選問題統体観』無我山房、1923年11月7日[『冷灰全集 第4巻』収録]

『冷灰遺藁』江木栄子、1926年3月15日[漢詩集]

『冷灰全集』全4巻、冷灰全集刊行会、1927年3月25日、4月28日、5月28日、6月30日

## 講義録

『行政法』英吉利法律学校、1887年[英吉利法律学校講義録明治20年第三学年]

\* 『英国行政法概論』1888年12月24日[専修学校科外講義録明治21年第三学年]

『本邦刑法 各論ノ部』東京法学校、[1888年](英吉利法律学校第2年級講義録)

『本邦治罪法』[1888年]

『日本刑法 汎論ノ部』東京法学院、[1890年](東京法学院24年度第1年級講義録)

『日本刑法 汎論ノ部』東京法学院、[1890年](東京法学院23年度第1年級講義録)

『日本刑法 各論之部』東京法学院、[1890年](東京法学院23年度第2年級講義録)

『本邦治罪法』東京法学院、[1891年](東京法学院23年度第2年級講義録)

『刑法汎論』専修学校、[1891年]

『民法財産編 物権之部』東京法学院、1892年(東京法学院25年度第1年級講義録)  
『刑法 汎論之部』東京法学院、[1892年](東京法学院25年度第1年級講義録)  
『民法財産編 総則及物権』東京専門学校、[1893年](東京専門学校法律科第1年講義録)  
『民法財産編 人権之部』東京法学院、[1893年](東京法学院26年度第1年級講義録)  
『民法財産編 人権之部』東京法学院、1893年(東京法学院25年度第1年級講義録)  
『日本刑法 各論之部』東京法学院、[1893年](東京法学院講義録)  
『日本刑法 各論之部』東京法学院、[1893年](東京法学院26年度2年級講義録)  
『刑法 汎論之部』東京法学院、[1893年](東京法学院26年度第1年級講義録)  
『民法財産編 物権之部』東京法学院、[1893年](東京法学院26年度第1年級講義録)  
『刑法各論』東京法学院、[1894年](東京法学院27年度第2年級講義録)  
『刑法汎論』東京法学院、[1895年](東京法学院27年度2年級講義録)  
『刑法汎論』東京法学院、[1897年](東京法学院31年度第1年級講義録)  
『刑法各論』東京法学院、[1900年](東京法学院34年度第2年級講義録)

## 訳書

ヘルマン・リョースレル『社会行政法論』警視庁、1885年1月20日[第2版：博聞本社、1886年、第3版：博聞社、1890年1月30日]  
『千八百八十五年伯林警察庁構成』須原鉄二、1886年1月19日  
ルードルフ・グナイスト『英国行政法講義』江木衷、1886年12月

## 序文等

\*序『衛生倫理行政上より観察したる巴里公娼論』濡沙吐蠡著、松本南溟・高田守天共訳、不二書院、1922年<横浜市中央図書館所蔵>

## 校閲

坪谷善四郎『市制町村制註釈』[江木衷・伊藤悌治閲]博文館、1888年6月4日[第3版：博文館、1888年8月29日]  
中島晋治『改正日本商法概論』長野印刷、1893年9月1日  
岩崎勲・岩崎徂堂『改正刑法問答』丸山舎書籍部、1907年5月15日  
エドワード・アボット・パリー・江橋活郎訳『弁護士道の七燈』法律新報社、1927年?月?日[増訂三版：法律新報社、1937年]

## 監修

『日本刑法通義』日本法学会、1916年6月21日

## 編輯

『司法行政判例彙報』11～36巻、判例彙法社、1900-1925年

## 2. 論文等(新聞・雑誌掲載)<313 篇>

### 1884(明治 17)年

慣習法起源諸説ノ批評『法学協会雑誌』5、7月19日

[討論筆記「二重抵当犯罪ノ有無」の中]『法学協会雑誌』9、11月15日

### 1885(明治 18)年

[討論筆記「相撲興行板囲外二高棧敷ヲ設ケ見物人ヲ誘引シタル損害賠償」の中]『法学協会雑誌』11、1月17日

公用土地買上規則ヲ論ス『法学協会雑誌』11、12、1月17日、2月21日

[討論筆記「殺人無効犯ノ件」の中]『法学協会雑誌』19、20、9月19日、10月17日

法学指南『法学協会雑誌』19、9月19日

### 1887(明治 20)年

法理学講義『法理学講義』1~17、1887年~1888年[『冷灰全集 第1巻』収録]

刑法汎論ニ関スル穂積教授ノ批評ニ答フ[「批評」]『法学協会雑誌』43、9月20日

### 1887(明治 20)年

数罪併科主義ヲ論ス『万国法律週報』7、1月7日

監獄主義ヲ論ス『万国法律週報』16、3月18日

### 1888(明治 21)年

家宅侵入罪ヲ論ス『法学協会雑誌』49、4月20日

法人論『日本之法律』7、9、10、8月1日、10月1日、11月1日

### 1889(明治 22)年

現行刑法ニ於ケル折衷主義ノ適用『法理精華』1、1月3日

人情界[小説]『法理精華』1~3、5、7、10、11、13、15、1月3、15日、2月1日、3月1日、4月1日、5月15日、7月1日、8月1日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]

法理上ニ於ケル皇城ノ觀察『法理精華』2、1月15日

現行刑法ニ於ケル加持力教旨ノ摘発『法理精華』3、2月1日

憲法上ニ於ケル臣民權利ノ七不思議『法理精華』5、3月1日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]

屋号専用権ノ經濟的觀察『法理精華』8、4月15日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]

某雑誌記者ノ駁論ニ答フ『法理精華』11、5月1日

文明風ノ賄賂罪『法理精華』16、8月15日

土地収用法ト民法草案『法理精華』18、9月15日

民法草案財産篇批評『法理精華』19、21、22、24、10月1日、11月1、15日、12月15日

### 1890(明治23)年

行政令ノ始末ヲ如何セン『法理精華』31、32、4月1、15日

日本法典の国家思想[「江木衷氏の新法典に関する演説」中の10月12日演説速記録(於能楽俱樂部演説会)]  
『読売新聞』10月15、16日

### 1891(明治24)年

憲法第一号問題[「擬律」]『法学新報』1、4月25日

人権篇序[「漫録」]『法学新報』1、4月25日

日本民法講義第二版序[「漫録」]『法学新報』3、6月25日

富籤ノ話[東京法学院大会演説速記]『法学新報』4、7月25日

必要を失したる緊急命令は緊急命令を以て之を取消すの必要あり『法学新報』7、10月25日

警察新報記者ニ望ム(警察ノ根本法ヲ誤ル勿レ)『警察新報』1、11月

### 1892(明治25)年

警察根本法ヲ殺ス勿レ『法学新報』10、1月25日

法典実施延期意見『読売新聞』5月23日[穂積八束らと連名]

法典実施延期意見[無署名社説]『法学新報』5月25日

民法講義物権篇第三版序[「漫録」]『法学新報』15、6月25日

示学生『法学新報』18、9月25日

狩猟規則ノ無効『法学新報』19、10月20日

### 1893(明治26)年

民事訴訟法ハ翻訳ニアラス『法学新報』22、1月25日

民事訴訟ノ放任主義『法学新報』23、2月20日

民事ト行政事件『法学新報』25、4月28日

### 1894(明治27)年

訴訟代理の本義『法学新報』34、1月28日

法典ニ於ケル私犯法ノ地位『法学新報』37、4月28日  
正当防衛權ヲ論ス『法学新報』38、5月28日  
法典ト代理主義『法学新報』39、6月28日  
法典ト占有論『法学新報』41、8月28日  
日英新條約ニ關スル法律上ノ疑義『法学新報』42、43、9月28日、10月28日  
現行刑法原論第二版序[「漫録」]『法学新報』43、10月28日

### 1895(明治28)年

營業權ノ地方的制限『法学新報』46、1月28日  
偽造手形論『法学新報』47、2月28日  
刑事第四十二号問題[「擬律」]『法学新報』47、2月28日  
読非常国際法論[「漫録」]『法学新報』47、2月28日  
事實認定ノ信義『法学新報』48、3月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』48、3月28日  
地租減少論『法学新報』49、4月29日  
民事第四十三号問題[「擬律」]『法学新報』49、4月29日  
国法談『法学新報』50~53、5月29日、6月30日、7月28日、8月28日  
刑事第四十七号問題[「擬律」]『法学新報』50、5月29日  
民事第四十八号問題[「擬律」]『法学新報』50、5月29日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』50、5月29日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』51、6月30日  
三池鉦山震災損害要償事件法理的觀察『法学新報』54、9月28日  
有価証券論『法学新報』54、9月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』55、10月28日  
水面所有權論『法学新報』56、11月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』56、11月28日  
名古屋控訴院ニ於ケル冷灰居士弁論要旨[「擬律」]『法学新報』57、12月23日

### 1896(明治29)年

[漢詩、「漫録」]『法学新報』58、1月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』59、2月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』60、3月29日

[漢詩、「漫録」]『法学新報』62、5月29日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』64、7月29日  
時効法論に序す[「漫録」]『法学新報』64、7月29日  
訴願ノ行政権ヲ論ス『法学新報』65、8月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』65、8月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』66、9月29日  
訴願法概論『法学新報』67~69、10月30日、11月30日、12月28日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』67、10月30日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』68、11月30日

### 1897(明治30)年

罔極之哀『法学新報』70、1月29日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』70、1月29日  
民法妄議論『法学新報』71、2月25日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』71、2月25日  
国際法ノ意義『法学新報』72、3月20日  
民法批評(二)『法学新報』74、5月20日  
行政訴訟ニ於ケル对手『法学新報』77、78、8月20日、9月20日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』77、8月20日  
司法革新ノ一斑『日本弁護士協会録事』2、9月25日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』79、10月20日  
法治国ノ行政『法学新報』81、12月20日

### 1898(明治31)年

改正刑法草案按批評『法学新報』82、83、1月20日、2月20日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』83、2月20日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』86、5月20日  
官吏侮辱事件ノ上告趣意[「漫録」]『法学新報』87、6月20日  
民法(親族相統篇)漫評『法学新報』89、90、8月20日、9月28日  
確認訴訟ニ就テ『法学新報』92、10月21日  
待我帰軒記[「漫録」]『法学新報』92、10月21日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』93、12月20日



### 1899(明治 32)年

- [漢詩、「漫録」]『法学新報』94、1月20日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』95、2月20日  
予審及ヒ公判『法学新報』96、3月20日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』97、4月20日  
財政根治策[演説]『法学新報』103、10月29日  
[漢詩、「漫録」]『法学新報』103、10月29日

### 1900(明治 33)年

- 誰カ寺院ヲ財団法人ト謂フ『法学新報』107、2月20日  
庚子昇平詞[「漫録」]『法学新報』107、2月20日  
会社法実用詳解序[「漫録」]『法学新報』112、7月20日  
娼妓契約ノ効力ヲ論シテ娼妓保護ノ方法ニ及フ『法学新報』114、9月20日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]

### 1901(明治 34)年

- 戦利品ニ就テ『法学新報』118、1月20日  
地方制度調査会設立を望む『日本人』132、2月5日  
刑法草案批評『日本弁護士協会録事』39、3月28日  
奴隷根性の日本人民[「横議十行」]『読売新聞』7月8日  
嗚呼「ボア」先生[「横議十行」]『読売新聞』7月17～19、21、22日  
学者も亦奴隷根性[「横議十行」]『読売新聞』10月24日  
戦とは何ぞ『日本人』152、12月5日

### 1902(明治 35)年

- 訪井上伯干興津別野賦此奉呈[「東瀛詩観」中]『日本人』159、3月20日  
日本ノ法学[講演]『法学協会雑誌』20-3、3月1日

### 1903(明治 36)年

- 実用的人物『中学世界』6-14、11月10日[文責在記者]

### 1904(明治 37)年

- 弁護の秘訣[「名流談片」]『中学世界』7-16、12月10日

### 1905(明治 38)年

御題 新年山[漫録]『日本弁護士協会録事』84、2月28日

中央大学の去来今[記念式講演筆記]『法学新報』15-13、12月1日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]

### 1906(明治 39)年

社会の進運と現行民法[談]『財界』6-1、10月11日

### 1907(明治 40)年

\*新春対山[「文芸」]『女鑑』17-1、1月1日

\*女子と音楽[「文芸」]『女鑑』17-3、3月1日

重罪及軽罪『法学新報』17-7、7月1日

水の崇[談]『海』8-10、10月25日

### 1909(明治 42)年

日糖事件は弁護の余地ありや[談]『読売新聞』5月21日

陪審制論『法律新聞』601、602、10月25、30日

判事と陪審制『刑事法評林』1-3、11月5日

陪審制に就て『法律新聞』604、11月10日

巡査の裁判『日本弁護士協会録事』136、11月28日[『山窓夜話』から転載]

伊藤公と陪審制『法律新聞』610、12月10日[『冷灰全集第4巻』収録]

違警罪即決廃止論『読売新聞』12月15日

伊藤公と陪審制度『日本弁護士協会録事』137、12月28日

### 1910(明治 43)年

沿革法理学派の勃興を望む[文責在記者]『雄弁』1-2、3月1日

梅雨有感[「文苑」]『日本弁護士協会録事』143、6月28日

余暇利用修学法『成功』18-6、7月1日

弁護士立身要訣『成功』19-1、8月1日

陪審制度は憲法の原則也『刑事法評林』2-11、11月5日

### 1911(明治 44)年

性相学序『日本弁護士協会録事』149、1月28日

証拠法制定の必要『法学新報』21-4、4月1日

### 1912(明治45・大正元年)

「余の好きな英雄と好かぬ英雄」『実業之日本』15-1、1月1日  
「余の最も好むもの三つ厭なもの三つ」『実業之日本』15-1、1月1日  
内務省と宗教『東京日日新聞』1月23日  
大逆事件と陪審制度『社会政策』2-3、4、2月1日、[3月1日]  
諸君は何を学びつゝある乎『雄弁』3-4、4月1日  
取引所法違反と賭博罪に就て『法律新聞』783、4月20日  
現代社会の趨勢[「当今の社会問題」]『日本及日本人』581、5月1日  
「マグダ」の上演禁止『東京日日新聞』5月21、22日  
新道徳促進論『社会政策』2-7、6月1日  
不正手形問題解決の照準[談]『実業之横浜』9-24、9月21日  
本立而道生(我誰と共に語らむ)『青年及青年団』3-11、11月1日  
元老会議と国民の覚悟[「増師問題及時局」]『経済時報』120、12月20日

### 1913(大正2)年

「余等は貴社の体力質問に対して此く答ふ」『実業之日本』16-1、1月1日  
価値ある根本生活[「新年号付録」]『成功』24-4、1月1日  
有終的活動主義の道徳論『東洋哲学』20-1、1月10日  
人間の人格を認めぬ我司法制度『帝国評論』71、2月3日  
制度及国民思想の根本問題[「政治家の出处進退」]『太陽』19-3、3月1日[文責在記者]  
先づ憲政の実を挙げよ『内外教育評論』7-3、3月1日[文責在記者]  
誠忠にして頑冥なる山県公[「山県公及び山県系」]『太陽』19-4、3月15日[文責在記者]  
奥田文相論[「山本内閣大臣一人一評」]『太陽』19-5、4月1日[文責在記者]  
教育及読書観『読書之友』2-5、5月1日  
社会に順応せよ『婦人画報』82、5月1日  
帰化叛逆論を嗤ふ『太陽』19-8、6月1日[文責在記者]  
江木博士談片『新真婦人』4、8月1日  
廃止の一途あるのみ[「枢密院論」]『太陽』19-11、8月1日[文責在記者]  
理想の実現力『読売新聞』11月16日[「理想の憲政」、『冷灰全集第4巻」]  
臣民の権利『青年』1-1、12月1日

## 1914(大正 3)年

- 日本に人権なし[文責在記者]『第三帝国』4、1月10日
- 日本人には理想の実現力無し『法律新聞』913、1月10日
- 官僚の観る人権問題『実業之世界』11-1、1月15日
- ベネデット・クロースの新哲学『日本弁護士協会録事』182、1月28日
- 法律と美術[「漫録」]『日本弁護士協会録事』182、1月28日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]
- 官僚の目に映ずる人権問題[12月22日刑政研究会講演]『太陽』20-2、2月1日
- 岩国[「我が郷里の記憶」]『読売新聞』2月18日
- 何故日本の巡査は人民を斬るか『新日本』4-3、3月1日
- 日本人には理想の実現力なし[談]『実業之横浜』11-3、3月10日
- 出版の自由『法律新聞』925、3月10日
- 近代思想と現今の政局『青年』2-4、4月1日
- 立憲的国民教養の根本『内外教育評論』8-4、4月1日[文責在記者]
- 大隈内閣に対する註文[「当面の問題」]『読売新聞』4月23、24日
- 人権問題『日本弁護士協会録事』185、4月28日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]
- 新内閣に陪審制度を希望す『経済時報』137、5月1日
- 我が国民には人間たる尊厳なし『青年及青年団』5-6、6月1日
- 憲政の根本的改革『第三帝国』13、6月16日
- [漢詩]『第三帝国』19、9月16日
- 十年後れの我文明『青年』2-11、11月1日
- 「世界」発刊と言論の自由[談]『世界新聞』11月20日

## 1915(大正 4)年

- 今回の恩赦令には斯の遺憾あり一恩赦の範囲狭きに過ぎ法相の権限大に過ぐ一[談]『読売新聞』1月11日
- 自由なく権利なき立憲国『第三帝国』35、3月20日
- 選挙についての感想『第三帝国』36、4月5日
- 尽是専制治下の顕象 再度の質問に答へて却て高教を乞ふ『第三帝国』39、5月5日
- 法治国と徳治国『第三帝国』40、5月15日
- [「我国労働者に対する希望」]『労働及産業』51、11月1日
- 茅原君の変説改論に就て[文責在記者]『第三帝国』号外、11月29日

## 1916(大正 5)年

- 『茅原君の変説改論に就て』に就いて『洪水以後』1、1月1日
- 〔「大正五年四月より施行せらる可き工場法に対する意見」』『労働及産業』53、1月1日
- 新理想主義より見たる日本の政治、外交[文責在記者]『新理想主義』58、1月5日
- 憲法政治の末路『大阪朝日新聞』2月20～22日
- 〔「現代の政治家」』『青年』4-3、3月1日
- 日本に自由なし人權なし憲法政治なし『新理想主義』66、4月20日
- 理想の実現力無き日本人『内外教育評論』10-5、5月1日
- 捜査機関と裁判制度『東京日日新聞』5月9～11日[『理想の憲政』、『冷灰全集 第4巻』収録]
- 大浦前内相不起訴の理由を評す『新理想主義』68、5月20日
- 捜査機関と裁判制度[論説]』『日本警察新聞』369、370、6月1、11日
- 誤判と其責任 陪審制度の必要[談]』『時事新報』6月27日
- 糖尿病の発生[「私の健康法」談]』『読売新聞』6月29日
- 大隈首相暗殺事件と日本の政治『第三帝国』70、7月1日
- 大隈首相と現代法学『日本弁護士協会録事』210、7月28日[「冷灰留稿」、『冷灰全集 第4巻』収録]
- 〔「崙山氏の西遊に対する希望」』『日本評論』16、8月1日
- 恐れ多き事なるべし[「赤十字社腐敗せり—社会各方面名士の改革意見を聴け」』『青年』4-10、10月1日

## 1917(大正 6)年

- 空山説夢答君恩[論説]』『日本弁護士協会録事』215、1月28日[「冷灰留稿」、『冷灰全集第4巻』収録]
- 立憲法治国の実なし私恵治国のみ『第三帝国』81、2月1日
- 丁巳歳旦題壁並引『第三帝国』81、2月1日
- 日本には未だ立憲内閣なし『一大帝国』2-3、3月1日
- 依然として専制政治のみ『内外教育評論』11-3、3月1日
- 憲法政治に対する長防人士の責任『東京日日新聞』3月6～13日(『大阪毎日新聞』3月[10～17日])(二)を『新聞集成大正編年史 大正六年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1979年)収録)[『理想の憲政』、『冷灰全集 第4巻』収録]
- 憲法政治に対する長防人士の責任『法律新聞』1233、1234、3月13、15日
- 憲政済美のクーデター『東京日日新聞』3月19日[『理想の憲政』、『冷灰全集 第4巻』収録]
- 憲政済美のクーデター『法律新聞』1238、3月25日
- 国民の腐敗墮落は国法の結果『内外教育評論』11-4、4月1日
- 学生風紀論 学校内に特殊の監獄を設く可し『東京日日新聞』4月2、3日[『理想の憲政』、『冷灰全集 第4巻』、『新聞集成大正編年史 大正六年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1979年)収録]

明治大正専制政治の秘密を暴露して同志に告ぐ『第三帝国』83、4月10日  
欲望と理想、専制国と法治国『法治国』29、30、4月10日、5月10日  
請願令発布の真意『日本及日本人』703、4月15日  
国民道徳の根本的欠陥『青年』6-5、5月1日  
普通選挙あるのみ[「最近思潮」]『第三帝国』84、5月10日  
樺太事件に対する法律上の觀察『日本弁護士協会録事』219、220、5月28日、6月28日[「法廷に於ける  
弁論」]『冷灰全集第4巻』収録]  
不見識無価値「臨時外交調査会に対する批評」『青年』5-7、7月1日  
政治上より見たる日本の将来『日本評論』2-7、7月1日  
理想の実現力なき日本人『第三帝国』86、7月10日  
[「刑事略式手続改善問題」]『法治国』36、11月10日

### 1918(大正 7)年

還暦偶感『中外新論』2-1、1月1日  
世界各国に比類なき官僚万能の日本一就中、その危険なる裁判制度に就て『第三帝国』91、1月10日  
警察の欠陥は制度の罪[文責在記者]『日本警察新聞』430、2月11日  
噫々奴隷国民！一政界も人民も何を為しつゝある乎『第三帝国』92、2月10日  
岡半事件の根本的批判『中外新論』2-3、3月1日  
[「東京市長問題解答」]『青年』6-4、4月1日  
国民道徳の根本的欠陥『青年』6-5、5月1日  
騙■五千有余万『大観』1-1、5月1日  
\*教育制度の根本的革新を要す『第三帝国』98、8月10日  
当代稀に見る英才[「原内閣論」]『国論』4-11、11月5日  
賄賂罪を論ず『日本弁護士協会録事』22-10、11、11月28日、12月28日[「法廷に於ける弁論」]『冷灰全  
集第4巻』収録]

### 1919(大正 8)年

理想の実現力に富む仏蘭西『極東時報』83、1月18日  
故伊藤博文公の苦心を偲びて[「憲法制定三十年の感想」]『中外新論』3-2、2月1日  
改正選挙法と思想問題[談]『東京日日新聞』6月4～6日[『大阪毎日新聞』6月5、6、9日、『日本警察新聞』  
480、7月1日に転載]  
法律心理学の応用『日本弁護士協会録事』23-6～9、6月28日、7月28日、9月28日、10月28日[「法  
廷に於ける弁論」]『冷灰全集第4巻』収録]  
陪審は人道制[談]『大阪朝日新聞』7月18日

\*新思想実現の第一歩『台湾警察協会雑誌』27、8月25日

陪審制度の学理的知識『日本弁護士協会録事』23-10、11月28日

陪審制度と憲法の関係『法律新聞』1623、11月28日[「陪審制度の原理及実行」と題して『日本警察新聞』494～497、12月15日、**1920年**1月1、15日、2月1日に転載]

## 1920(大正9)年

新しき日本の出発点理想の下に万人目覚めよ[「大正九年初頭に於ける諸名士の所感」]『自由評論』8-1、1月1日

陪審制度は果して憲法に抵触するか『文化運動』110、2月1日

暗傷魂[「百年後の日本はどうなるか?」]『日本及日本人』780、4月5日

小出大佐傷害被告事件に就て『法律新聞』1705、6月23日

## 1921(大正10)年

国民的理想を宣明せよ—普通選挙を叫ぶ以前に—『日本乃関門』64、1月11日

[「遠近春信」]『文化運動』118、2月10日

慶すべき陪審制度『東京日日新聞』2月14日[『新聞集成大正編年史 大正十年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1982年)収録]

定年法案に就て[談]『東京日日新聞』2月25日

群衆心理の最新学説『日本弁護士協会録事』25-3、3月28日[『冷灰全集第4巻』収録]

物質主義及精神主義の犯罪心理『雄弁』12-4、4月1日

問題となつた定年法制定の是非『ちから』1、5月1日

両極端の憲法解釈『東京日日新聞』5月3、4日

両極端の憲法解釈『法律新聞』1832、5月10日

国法学上の憲法解釈『日本弁護士協会録事』25-5、5月28日[「冷灰留稿」『冷灰全集第4巻』収録]

陪審法ト憲法ノ解釈[「最近の学説」]『受験界』2-6、6月1日

陪審法理観『法律評論』10-8[臨時増刊 法律評論創刊十週年記念論文集]、6月5日[原嘉道・花井卓三との共著。『陪審制度法理観』<非売品>平松市蔵、1921年刊]

憲法ト定年法及ヒ陪審法『法律評論』10-8<臨時増刊 法律評論創刊十週年記念論文集>、6月5日

法官大更迭評[談]『東京朝日新聞』6月11日(『大阪朝日新聞』6月11日)[『新聞集成大正編年史 大正十年度版 中』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]

両極端の憲法解釈[「思潮」]『日本警察新聞』530、6月15日

司法権独立の両意義『東京日日新聞』7月3日

知事と大佐の毆合事件弁論『雄弁』12-9、9月1日

大本教弁論に就て古峽先生に一言す『東京朝日新聞』9月28日

司法権独立の両意義『法律新聞』1856、7月10日  
陪審法は僕の生命 反対論は時世遅れ[談]『読売新聞』8月21日  
屍体処分の法理観『法律新聞』1909、11月23日  
酩酊者の犯罪責任『法律新聞』1910、11月25日  
憲法と陪審法『法律新聞』1913、12月3日  
江木博士謹草の国体論『法律新聞』1921、12月23日  
国体論『日本弁護士協会録事』25-11、12月28日[『冷灰全集第4巻』収録]

### 1922(大正 11)年

憲法と陪審法[「思潮」]『日本警察新聞』543、1月1日  
新道徳を建設せよ 我国道徳教育上の大欠陥『日本乃関門』78、1月11日  
専門家となる前にまづ人となれ『上毛新聞』3月23日  
[「産業議会議提唱に対する諸名士の意見」]『実業之世界』19-4、4月1日  
銷夏の政界冷視[談]『東京朝日新聞』8月15日  
偽証罪を論ず『日本弁護士協会録事』26-8、9、9月28日、10月28日[「法廷に於ける弁論」『冷灰全集第4巻』収録]

### 1923(大正 12)年

陪審法に就ての予の立場 陪審法発布祝賀会に於ける謝辞『法律新聞』2115、4月28日  
江木、原、花井弁護士の陪審制立案要綱『法学新報』33-5、5月5日  
天佑と陪審法『法学新報』33-5、5月5日  
憲法と陪審法『法学新報』33-5、5月5日  
陪審問答[「文苑」]『法学新報』33-5、5月5日  
花井博士の治罪沿革史を読む[「文苑」]『法学新報』33-5、5月5日  
陪審法所感[「思潮」]『日本警察新聞』576、5月15日  
憲法ト陪審制度ノ関係ヲ論ス『法学新報』33-6、6月1日  
低級常識と高等常識[「現代名士一家一言録」]『現代』4-7、7月1日  
陪審制度の生れた由来—陪審制度の効果は如何—『寸鉄』5-7、7月1日  
\*物質主義の壊滅『心靈研究』[1-2]、8月1日  
国体論『法学新報』33-8、8月1日  
\*普選は既に実行されている 問題は納税資格[談]『時事新報』8月17日  
国体論[「最近学説」]『受験界』4-10、10月1日  
陪審法に関する意見『法学新報』33-9、10月10日



普選問題統体観『法律新聞』2181、2182、11月13、15日

東西哲学の帰一『東洋文化之真髓』1、11月15日[『冷灰全集第4巻』収録]

判決は過重だ 懲戒処分が適当[「この判決をどう観る」]『東京朝日新聞[夕刊]』12月9日(重過ぎる[「甘粕事件判決と批判」]『大阪朝日新聞』12月9日[『新聞集成大正編年史 大正十二年度版 下 関東大震災期十二月』(明治大正昭和新聞研究会、1985年)収録])

### 1924(大正13)年

普選論の批判に就て『法律新聞』2206、1月15日

国体論『大東文化』1-1、3月1日

答人書[隨筆]『大東文化』1-2、4月1日

弁護士道の七燈明[校閲]『法律新報』21~23、25~37、11月25日、12月5、15日、**1925年**1月5、15、25日、2月5、15、25日、3月5、15、25日、4月5、15、25日、5月5日[『弁護士道の七灯』1927年刊]

普選問題統体観『大東文化』1-10、12月1日

### 1925(大正14)年

東西道徳学の帰一[1924年11月29日講演]『大東文化』2-1、1月10日[『冷灰全集第4巻』収録]

普選法案と欧米の近代道徳『法律新聞』2349、1月13日[『冷灰全集第4巻』収録]

\*普選と労働階級『帝国興信所内報』5551、1月23日

普選と労働階級『法律新聞』2355、1月28日[『冷灰全集第4巻』収録]

近代群衆心理論『日本弁護士協会録事』29-2、2月1日

### 3. 『冷灰全集』収録内容

『冷灰全集 第1巻』冷灰全集刊行会、1927年3月25日

|             |                                 |
|-------------|---------------------------------|
| 法律解釈学       | 増訂2版博文館、1889年11月[初版：1886年2月27日] |
| 法理学講義       | 『法理学講義』1～17、博聞社、1887～1888年      |
| 独仏対照英国行政裁判法 | 東海書館、1887年7月1日                  |
| 現行刑法原論      | 『現行刑法原論』1892年刊                  |

『冷灰全集 第2巻』冷灰全集刊行会、1927年4月28日

|            |              |
|------------|--------------|
| 近世民法汎論     | 博文館、1891年刊   |
| 現行民法論 総則編  | 有斐閣、1906年刊   |
| 民事訴訟原論     | 有斐閣書房、1893年刊 |
| 日本民法 財産取得篇 | 有斐閣書房、????年刊 |

『冷灰全集 第3巻』冷灰全集刊行会、1927年5月28日

|                |            |
|----------------|------------|
| 日本民法講義財産篇 人権之部 | 有斐閣、1892年刊 |
| 日本民法講義財産篇 物権之部 | 有斐閣、1891年刊 |

『冷灰全集 第4巻』冷灰全集刊行会、1927年6月30日

|  |  |
|--|--|
| 最近思潮国家道徳論  | 博文館、1912年10月27日[第3版：1913年6月15日]        |
| 第一章 憲政治下の国家道徳、第二章 近代思潮の道徳觀念、第三章 旧唯心論の勃興、明治の前半期、第四章 旧唯心論の頓挫、明治の中間期、第五章 唯物論の優勢、明治の後半期、第六章 新唯心論の曙光、大正の新紀元、第七章 教育制度の根本的革新                  |  |
| 理想の憲政  | 有斐閣、1917年刊                             |
| 何をか理想と謂ふ   |  |
| 憲法政治に対する長防人士の責任  | 『憲法政治に対する長防人士の責任』山口県法政会、1917年3月15日     |
| 憲政済美のクーデター   | 『東京日日新聞』1917年3月19日                     |
| 選挙の積極的常道と消極的危道   |  |
| 学生風紀論  | 『東京日日新聞』1917年4月2、3日                    |
| 捜査機関と裁判制度  | 『東京日日新聞』1916年5月9～11日                   |
| 理想の実現力   | 『読売新聞』1913年11月16日                      |
| 理想と天佑  | 『世界新聞』                                 |
| 冷灰漫筆   | 『冷灰漫筆』有斐閣、1909年6月8日                    |
| 理屈と法律との別、刑法改正の奇観、新説奇、常識の定義、司法界の現状、司法参与権、政權と司法参与権、憲法と司法参与権、地方自治と司法参与権、大義名分、宗教と法律の融化、法律と国民の品性、和実漢名、智能の練磨、語音の修養、多々益弁、学校騒動の原則              |  |
| 山窓夜話   | 『山窓夜話』有斐閣、1909年年10月15日                 |
| 万国無比の日本時文、趣味の説、所謂俳句の秘訣、漢詩と雲助歌、支那文学と日本趣味、梅花と桜花、日比谷公園の月桂樹、慕而似趣味と似而非趣味、自然主義の小説と法律、人道と基督教旨、廉価なる哉日本人民の生命、罷官夢始清、巡查の裁判、法廷の趣味、怯遠主義、不得要領の説、陪審制、 |  |
| 国体論  | 『国体論』江木衷、1921年10月                      |
| 陪審制度談  | 『陪審制度談』博文館、1911年10月19日                 |
| 治外法権時代の宿弊、憲政治国、法治国及び私恵治国、人間道、鬼神道及び畜生道、憲法と陪審制度、陪審制度案の内容、陪審制度の反対説、陪審制度の弊害、法学各派と陪審制度、伊藤公と陪審制度、一篇の懺悔録、                                     |  |
| 憲法と陪審法   | 『憲法と陪審法』江木衷、1921年                      |
| 天祐と陪審法   | 『天祐と陪審法』江木衷、1921年11月26日<非売品>           |
| 伊藤公と陪審制度   |  |
| 普選問題統体観  | 無我山房、1923年刊                            |
| 普選法案と欧米の近代道徳   | 『法律新聞』2349、1925年1月13日                  |
| 普選と労働階級  | 『法律新聞』2355、1925年1月28日                  |
| 法廷に於ける弁論   |  |
| 樺太事件に対する法律上の觀察   | 『日本弁護士協会録事』219、220、1917年5月28日、6月28日    |
| 賄賂罪を論ず   | 『日本弁護士協会録事』22-10、11、1918年11月28日、12月28日 |

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 法律心理学の応用              | 『日本弁護士協会録事』23-6~9、1919年6月28日、7月28日、9月28日、10月28日                       |
| 群衆心理の最新学説             | 『日本弁護士協会録事』25-3、1921年3月28日  |
| 偽証罪を論ず                | 『日本弁護士協会録事』26-8、9、1922年9月28日、10月28日                                   |
| 漢文学と思想問題              |   |
| 漢学研究の必要               |   |
| 東西哲学の帰一               | 『東洋文化之真髓』1、1923年11月15日  |
| 東西道徳学の帰一              | 『大東文化』2-1、1925年1月10日  |
| 冷灰留稿                  |   |
| 監獄主義論                 | 『監獄主義論』小野田元熙、1885年刊   |
| 人情界                   | 『法理精華』1~3、5、7、10、11、13、15、1889年1月3、15日、2月1日、3月1日、4月1日、5月15日、7月1日、8月1日 |
| 憲法上ニ於ケル臣民権利ノ七不思議      | 『法理精華』5、1889年3月1日   |
| 屋号専用権ノ経済的觀察           | 『法理精華』8、1889年4月15日  |
| 娼妓契約ノ効力ヲ論シテ娼妓保護ノ方法ニ及ブ | 『法学新報』114、1900年9月20日  |
| 中央大学の去来今              | 『法学新報』15-13、1905年12月1日  |
| 法律と美術                 | 『日本弁護士協会録事』182、1914年1月28日   |
| 人権問題                  | 『日本弁護士協会録事』185、1914年4月28日   |
| 大隈首相と現代法学             | 『日本弁護士協会録事』210、1916年7月28日   |
| 空山説夢答君恩               | 『日本弁護士協会録事』215、1917年1月28日   |
| 国法学上の憲法解釈             | 『日本弁護士協会録事』25-5、1921年5月28日  |
| 待我帰軒詩存                |   |
| 書翰集                   |   |